

Y14a **オープンアクセスとプレプリントを取り巻く状況に対する学術分野ごとの認識差：天文学会会員を対象とした調査の自由記述の分析**

玉澤春史（東京大学），井出和希（大阪大学）

研究の様々なフェーズを研究者以外にもオープンにする運動であるオープンサイエンスは科学技術政策の一部としても言及されている。そのなかでも論文へのアクセスを自由にするオープンアクセスは、公開に関わる費用を著者が負担することの影響が、査読プロセスの前後で公開し速報的に知を共有するプレプリントの活用と連動して議論になっている。また、arXivの利用が日常的な天文学宇宙物理学分野を含む物理学分野と近年になって利用がはじめられた分野とではオープンアクセスやプレプリントに対し意識が違う可能性がある。国内における研究者への意識調査は科学技術・学術政策研究所による調査（池内・林2023）などがあり、研究分野ごとの動向の違いは示唆されているものの、分野ごとの調査は用語の使い方も含めて検討される必要がある。研究分野間におけるオープンアクセスおよびプレプリントに対する意識の差を比較するため、分子生物学会で実施されたアンケート（Ide & Nakayama 2023）内容を天文学会でも実施した。2024年の7月10日から8月9日にかけてメーリングリスト（tennet）においてよびかけ、2474（7月10日時点、団体・賛助会員登録除く）の登録から246の回答を得た。自由筆記部分には76の回答があり、大まかな傾向としてはオープンアクセスに対しては著者の費用負担増加が研究にもたらす悪影響に対する懸念、プレプリントに対しては査読の有無による利用判断の違いなどの回答があった。